

令和5年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校 自己評価・学校関係者評価

| 基本方針 | | 校訓「質実剛健」「創意実践」をもとに社会に貢献する人材の育成をはかる。 1 健全な運営体質を維持するために定員生徒数を獲得する。 2 法人の学園力を集結させる。 3 進学実績の向上を図る。 4 新・三種の神器を組み込んだ教育活動を計画・立案する。 5 新北中高を創るために、学科・カリキュラムの見直しを進める。 | | | 学校関係者評価 | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|-------|--------|------|-----|--------------|---------|------|-----|--|--|--|--|----|
| 令和4年度の成果と課題 | 令和5年度重点目標 | 令和5年度重点施策 | 状況 | ※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和4年度重点目標 1 健全な運営体質を維持するために定員生徒数を獲得する。 2 学園力・組織力を集結し、教師力を高める。 3 静岡北中高21世紀型教育プログラムを展開する。 4 課外活動の充実を図る。 5 評価される進学実績をあげる。 6 新北高を創る。 7 感染症対策の徹底を図る。 成果、課題等 1 募集活動の見直しを行い、改善を加えることで、目標値を達成できた。引き続き、募集方法の検証と改善を行う。 2 法人内WGを通じて、法人内各校との連携が深まることで、現場課題の共有や課題解決に向けて多角的な視野で議論が深まる等の成果があった。 3 ディープ・アクティブラーニング、ICT教育、グローバル教育、SSH第3期指定校活動、課題研究の拡大と充実を柱に、オンラインとの併用で多くの活動を展開し、生徒の興味関心を引き出す活動が出来た。生徒が楽しみながら主体的な活動が出来るよう更に改善を進める。 4 法人内各学校との連携した課題研究を継続し、好奇心をきっかけに自ら学ぶ姿勢を多くの生徒が持てたことは大きな収穫であった。また、希望参加型の30以上の課外活動プログラムが構築できたことは今後に向けて楽しみである。 5 興味関心をきっかけに、生徒が自ら目標とした進路に多く進んだ事は大変嬉しい。今後も一層教員の授業力、指導力向上を目指す。 6 学科、カリキュラムの見直しを進めた。今後も継続する。 7 感染症対策は継続しながら、対面活動を増やすことが出来た。 | ◎目標定員を獲得するための募集活動を展開する。 ◎「S×P教育」と「Global教育」を中心とした教育活動の展開により、心躍るような学園文化を醸成し、御幸町キャンパスへ繋げる。 ◎進学実績の向上を図る。 ◎『新・三種の神器』に対して、「メタバース」「Next Innovator」の調査・研究を行う。 ◎魅力的な中高一貫校を目指す。 | ◎生徒一人ひとりが成長ストーリーを描ける広報の展開 ◎教職員が学び続け、時代に対応したスキルをつける ◎個々に対応した細やかな進路指導と大学入試への対応 ◎建学の精神に沿った未来志向の教育プログラム開拓 ◎基礎学力+人間力+αの力を育む教育プログラムの構築 ◎生徒主体的参加型課外活動プログラムを構築する。 ◎未来を見据えた学科やコースの検討を行う。 | 継続 継続 改善・継続 継続 継続 | 5 : 最も良好 4 : ほぼ良好 3 : 普通 2 : やや不良 1 : 不良 | 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策等 | 自己評価 | | 成果・次年度への主な課題 | 学校関係者評価 | | | | | | | 平均 |
| 評価 | 平均 | 評議員A | 評議員B | 評議員C | | | | 評議員D | 同窓会 | | 教育関係者 | 地域住民 | | | | | | |
| 総務部 | 生徒・教職員が落ち着いて教育活動が行える環境作りを行う。 | 教務部・指導部・事務局・学年部・生徒会と連携を図り、情報を共有し環境美化を行った。 | 4 | 4.0 | 生徒増加を踏まえた最適な環境づくりを推進する。 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.1 | | | | | |
| | 地域から愛され応援される学校環境作りを行う。 | 生徒の主体的な地域清掃活動など、地域との良好な関係構築を意識した活動に努めた。 | 4 | | コロナもほぼ終息し、地域交流活動も容易となった。さらなる良好な関係構築のチャンスと捉え、積極的に地域に出ていきたい。 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 5 | | | | | | |
| 総務課 | 式典や諸行事を通じて礼節を育む。アフターコロナの式典や行事の形態を工夫する。 | コロナ期の式典や行事を検証し、従来の形に戻すだけでなくコロナ期の工夫・実践も残しつつ最適化を図った。 | 4 | 4.0 | 校歌の歌えない辛い時期も過ぎ、次年度は校歌斉唱にこだわり、式典・諸行事を実施したい。 | 5 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4.2 | | | | | |
| | 防災意識を高め、非常時に備える。 | コロナ期にできなかった全体での防災訓練も実施をし、啓発に努めた。 | 4 | | どんな状況でどんな災害が起きるかにより対応も異なる。そのことを念頭に多岐にわたる準備を行う。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | | | | |
| 入試広報課 | 募集定員を確保する。(R5年度入学者489名/定員440名) | 夏前から部活動見学会(部活動全体。個々の部活動)などで興味関心を喚起し、種々の募集イベントの参加につなげることができた。 | 4 | 4.0 | 多くの入学生を迎えることができた喜びと責任を痛感し、生徒・保護者の心に届く活動を展開する。 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4.4 | | | | | |
| | 志の高い入学生を増やす。 | 本校の教育の強み・特長を伝えることができ、モチベーションの高い入学生が増加した。 | 4 | | 北中・北高がいい、北中・北高でなければという思いを持っていただけるよう誠実に活動する。 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | | | | | | |
| 施設管理課 | 生徒が安心して生活できる環境づくりを行う。 | 行事・式典前にとどまらず、日頃より美化活動を行った。 | 4 | 4.0 | 安心・安全が第一であることを肝に銘じ、その上で多くの生徒が生活しやすい環境づくりを推進する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4.1 | | | | | |
| | 備品活用の推進、計画的な入れ替えを行う。物を大切にすることを育む。 | 美化委員会の備品点検活動など自分たちの物であるという意識を高めた。 | 4 | | 教職員・生徒共に気づきを大切にし、気づいたら動く体制づくりに努める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | | | | |
| 図書課 | 基本図書の充実を図り、自主的な読書や学習等の図書館活用の推進を図る。 | 学びの場、落ち着くスペース、英会話レッスンなどカルチャーの場として、多くの生徒の拠り所となった。 | 4 | 4.0 | 既成の概念から脱却し、新しい図書館像が確実にみえてきた。その流れを止めないようにする。 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.1 | | | | | |
| | 図書館運営を円滑化し、時代に応じた多岐にわたる活用を行う。 | 生徒・教職員が一体となり、おすすめ本ポップ作成など新しい試みを行った。 | 4 | | 生徒・教職員の一体感を醸成できる場として、相互に刺激しあう関係性を高めたい。 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|---|--|------------------------|-----------------------------------|--|---|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|
| 教務部 | | ・授業を大切に。 ・各教科でSP×P教育、Global教育を展開する。 ・法人各校との連携強化により学働力を発揮する。 ・新北高の創生 | 各教科で質の高い授業を行うための工夫を行った。 | 3 | 3.0 | 更に授業の質を高めるための工夫を促したい。 | 5 | 3 | 5 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4.0 | |
| | | 将来を見据え、新学科の検討やコースの見直しなど、新たな教育プログラムを見直しを行った。 | 3 | 今後の北高の教育プログラムを具体的にしてく。 | | | | | | | | | | | |
| 教務課 | | 基幹システムの支援を行う。 観点別評価の検証を行う。 新学科の検討を行う。 | 基幹システムに合わせて内部資料の様式を変更したり、担当者が入力しやすいようマニュアルを作成した。 | 4 | 4.0 | 次年度より基幹システムも観点別評価も全学年で実施するため、より全教員への周知徹底に努める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 | |
| | | | 観点別評価の検証を引き続き行い、次年度にむけ教務内規の改訂を行った。 | 4 | | 地域のニーズに合わせたこれからの教育を考え、新学科の検討を続ける。 | | | | | | | | | |
| 理数科 | | 進学指導の体系化を図る アドバンスコースのプログラム再編を検討する。 新学科の検討を行う。 | 現状に合わせ、進学講座やその他のプログラムを見直しながら、学年ごとによって具体的な到達目標を設定し、生徒に指導している。 | 4 | 4.0 | スタディサプリなど外部プログラムの有効的な利用方法など検討している。 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4.3 | |
| | | | 進学実績をまとめ、そこを生かしながら進学以外の特色を見出せるよう検討している。 | 4 | | 検定取得や探訪学習など、他の科と協働しながら特色をブラッシュアップしていく。 | | | | | | | | | |
| 国際C科 | | Global教育のプログラムの発展を図る。 コミュニケーション能力向上の為の具体的方策や、新学科の検討を行う。 | 着衣着付け講座、茶道講座、能講座、藍染講座など日本文化を海外に発信するための学習を実施できた。 | 4 | 4.0 | コロナ禍で実施できなかったイングリッシュサマーキャンプを再開するとともに、日本文化講座を継続し、国際C科の魅力を再構築する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 | |
| | | | 来年度実施予定のイングリッシュサマーキャンプに向けて、準備を着実に進めることができた。 | 4 | | 国際連携教育推進課と協力し、オンライン式と対面式による国際交流事業を実施し、異文化理解を育む。 | | | | | | | | | |
| 普通科 | | 法人内各校の魅力を発信し、進学者増加を図る。 新しい普通科の魅力再構築の検討を行う。 | 1年生に法人内・間学校との連携教育を実施した。 | 4 | 4.0 | 様々な活動を展開し、参加者数を増やす。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 | |
| | | | 高・大一貫コースを高大連携プログラムに切り替えることを検討する。 | 4 | | 大学との検討を継続し、具体的なプログラム作成の検討を行う。 | | | | | | | | | |
| 教科 | 国語 | 新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける | 「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。 | 4 | 4.0 | 文章や図表などで、内容や書き手の意図を理解し、考えを深める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.1 | |
| | | | 単元によってグループ活動など授業形態を工夫し、アクティブラーニングを実践した。 | 4 | | 多くの先行事例を取り入れていく。 | | | | | | | | | |
| | 地公 | 新学習指導要領への移行を完成させる。 主体的で双方向的な授業を行う。 | 「地理総合」と「地理探究」の研究と結合を行う。 | 4 | 4.0 | 科目変更後の共通テストで実績を出す。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| | | | 意欲喚起にICTとパワーポイントを活用する。 | 4 | | 研究授業の実施と相互評価を行う。 | | | | | | | | | |
| | 数学 | 新学習指導要領への移行と、観点別評価の運用についての現状把握と改善を行う。 普通科の知識定着と理数科としての進学に必要な学力の向上を各学年ごとに果たす。 | 3観点の評価について科・コースごと運用し、現状に即した評価についての問題を精査し、改善してきている。 | 4 | 4.0 | 「数学C」を研究し、共通テストに対応させる。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4.1 | |
| | | | 従来通りの習熟度編成、個別指導を実施した。課題の配布状況は例年より増えている。 | 4 | | 新課程が共通テストでどのように反映されるか情報を収集し、対応する。 | | | | | | | | | |
| | 理科 | 科学的に探究する能力と態度を育てる。 基礎学力の定着を目指す。 | 自然の事物・現象について理解を深めた。 | 4 | 4.0 | 基本的概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的自然観を育成する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| | | | 単元ごとの振り返り小テストや、書き込み式問題集などを用いて学力の定着を図った。 | 4 | | 生活との関わりを考えながら問題を解くことで、生きた理科力を育む。 | | | | | | | | | |
| | 保体 | 主体的に取り組む姿勢を育てる。 健康で協働的な態度を育てる。 | 授業の準備や片付け、準備体操までは生徒が主体的に行うように促し、学校行事へ繋げた。 | 4 | 4.0 | 体育祭や新体力テストなどの行事においても生徒主体に進める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4.2 | |
| | | | 生涯に渡りスポーツに関心が持てるよう、楽しく、仲間を大切にチームプレーも意識させた。 | 4 | | この年代でしっかりと基礎体力をつけ、生涯にわたり健康を意識させる。 | | | | | | | | | |
| | 美術 | 作品制作を通して、思考力・表現力・判断力を発揮できる素養をみにつける。 豊かな心を育てる。 | 技術レベルに捉われず、生徒一人ひとりの想いを大切に、アドバイスが一方的にならないような指導を行った。 | 4 | 4.0 | 生徒が意欲的に制作に取り組むことができるよう、技法修得と環境づくりに心掛ける。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| | | | 自己を見つめさせて、アイデアを捻出させて、作品に向き合わせた。 | 4 | | 他者（作品）への興味関心を広げられるようにする。 | | | | | | | | | |
| | 英語 | 新教育課程に対応した授業内容の改善を行う。 英検等資格の積極的な取得を促す。 | ICT機器を積極的に活用した授業の実施をする。 | 4 | 4.0 | 4技能を総合的に評価する方法の改善に取り組む。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.1 |
| | | | 英語科教員による事前指導、面接練習の機会を設定する。 | 4 | | 新設級「準2級プラス」に対応する指導方法を検討する。 | | | | | | | | | |
| | 家庭 | 観点別評価の検証を行う。 新たな教育の実践を意識した授業を展開する。 | 観点別評価の基準を每学期見直し、修正を加えた。 | 4 | 4.0 | 観点別評価の校内基準が次年度変更になるため、さらに観点別評価に注視し、検討を続ける。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4.1 | |
| | | | オープンクエッションをふまえた課題を作成したり、実習の回数を大幅に増やしたりし、実践力を養う授業を展開した。 | 4 | | 生徒の生活力や経験値が下がってきているため、より実践的な内容を増やしていく必要がある。 | | | | | | | | | |
| 情報 | 新科目を研究するとともに講座の対策を検討する。 効果的かつ効率的な学習形態を常に模索する。 | パワーポイントやTeamsの特性を活かした授業スタイルを実践し確立した。 | 4 | 4.0 | 「情報I」を研究する。 情報を教科内で共有し積み上げていく。 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4.1 | | |
| 創意実践科 | プログラムの検証を行う。 発表を計画・指示する。 | 全教員・各学年部の協力のもと、振り返りと修正を繰り返した。 | 4 | 4.0 | プログラムのテキスト化。 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4.4 | | |
| | | 各学年において、発表会を実施した。1・2年生に上級学年の発表を聴講する機会を設けた。 | 4 | | 生徒の発表スキルの向上、質疑応答の活性化。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|--|----|-----|--|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 目標生徒数を獲得する。(R5年度入学者72名/定員60名) 学園力を集結させる。 進学実績の向上を図る。 新三種の神器を組み込んだ教育活動を計画、立案する。 | <ul style="list-style-type: none"> 大学や専門学校と連携し、中学生向けのプログラムや募集活動に役立てる。 | 4 | 4.0 | <p>大学や専門学校と連携し、デザイン教室や夏休み自由研究サポートなどを募集活動に利用した。新入生67名と目標値には届かなかったが、定員60名は上回る事ができた。</p> | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 5 | 4.4 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> CASE、言語技術の質を高め、より深い研究活動やより高度な研究発表ができる基礎力を養う。 | 5 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 5 | | | | |
| 中学1年部 | 何事にも前向きで、新しいものとの出会いに喜び、楽しみながら自分自身で世界を広げていける力を身に付ける。 | <p>自身の成長を実感させながら、個々の生徒に合わせた到達点を設定し、自らの力でよりよいものにできるように手本と基準を示した。</p> <p>また、生徒の状態を常に把握し、適宜アドバイスや声掛けを行うことで、自己肯定感を高められるように配慮した。</p> | 4 | 4.0 | <p>本年度においては、細やかで丁寧な指導を心がけ、中学生としての自覚や学習習慣を確立するためのプログラムを実施し、生徒の成長や自信につなげることができた。来年度においては、「先輩」としての意識を持ちながら、学校生活に打ち込み、多角的に物事を見つめ、考えを深められるようなキッカケ(心の芽)を育てていきたい。</p> | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| 中学2年部 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導における生徒の育成を図る。 学習指導における生徒の育成を図る。 心の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに集団の一員としての役割を自覚した姿勢や態度を身につけさせ、リーダーシップ・フォロワーシップの育成につなげられた。 自分にあった学習の量と質のバランスを自己調整できるように継続的に指導し、家庭学習の習慣をブラッシュアップさせられた。 生徒自身による「職業調べ」(当番制)を発表させる機会(SHR)を設けるなどして、「夢を見つける」機会をたくさん与えられた。 | 4 | 4.0 | <p>自分の生活リズムに合わせて、自ら学ぶ力をつけてきている。特に「自主学習ノート」や「各教科課題」の取り組みがきちんとできる生徒が大半であるため、次年度に向けて「下級生の良き手本」となるように指導を継続しつつ、学習集団としての質の向上を目指させる。また、「夢見つけ」をより掘り下げて、進路選択に向け、生徒個々の適性に合わせた進路指導を行う。</p> | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| 中学3年部 | 2年次に培った「率先して課題と向き合う姿勢」、「科学的なものの考え方や国際感覚」、「プラス思考とチームワークによる解決策」で「創意実践」を図る。 | <p>学年目標「絆～認め合い、励まし合う仲間」をホームルームや諸活動を通じて呼び掛け、3年間の集大成としてこれまで以上に「仲間」や「集団」を意識して生活することを実践した。</p> <p>これまでと同様、各教科の課題や提出物、「フォーサイト」「自学ノート」等の毎日取り組むべきものについて、クラスや学年全体で話し合い呼び掛け合う機会を設け、意識付けの強化を図った。</p> | 4 | 4.0 | <p>コロナ感染が感染症法上5類に位置づけられたことを受け、感染症対策を緩めつつコロナ禍以前に近い授業・諸活動を展開した。進路指導では、将来的な職業選択と個々の実力を熟慮した指導を実施し、国内研修旅行では「震災教育」を柱とし、生徒個々が震災遺構に直接触れる機会を設けるとともに、今後の実生活や「南海トラフ地震」への課題を提示した。高校進学後も、自ら考え行動する姿を大いに期待している。</p> | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4.1 |
| 高校1年部 | <ul style="list-style-type: none"> 人としての基本を大切に、意識させ、行動に移す。 教師としての基本を徹底する。 何事にも明るく元気に全力で取り組む。 | <p>指導ポイントを明確にしてHRや学年集会にて規範意識向上の話をし基本的生活習慣を身につけさせ、生徒自ら行動に責任を持たせた。</p> <p>文化祭や体育祭などの学校行事では、クラスメートや部活の仲間と一丸となって取り組み、行事に参加して盛り上げることを意識させた。</p> | 4 | 4.0 | <p>我々教師が学習面・生活面ともに生徒自ら高めていこうという気持ちを指導し、生徒の規範意識向上に繋げた。また今後それが近隣住民からの信頼と学校としての高い評価を得られることになると思う。</p> | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4.3 |
| 高校2年部 | <ul style="list-style-type: none"> 人としての基礎基本の確立を図る。 進路希望の具現化の為に相当の知識、教養を身に付ける。 教員としての基本を徹底する。 | <p>学年で頭髮服装などの特別指導を定期的に行いルールを守ることの大切さを意識させた。</p> <p>学校行事を活用し、生徒が主体的に活動できる場を作り出し、達成感を得られるように支援することができた。</p> | 4 | 4.0 | <p>進路決定に向けて、目標を高く設定し、意欲的に意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。また、学校行事を通して協調性や社会性を学び、周囲と良好な人間関係を構築できる人材を育成する。</p> <p>進路実現に向けて、生徒が積み上げてきた力をさらに伸ばし、その力を十分に発揮できるような環境を整備し、適切な指導を行う。</p> | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.0 |
| 高校3年部 | <ul style="list-style-type: none"> 入学試験や就職試験に備えて、学習方法や入試対策を模索し実践する。 基本的生活習慣を確立させる。 意欲的に学習に取り組む。 学校行事、生徒会活動、部活動などに主体的に取り組む。 | <p>生徒の希望と可能性を見極め、生徒に合った進路指導をした。大学入試では、一般・推薦・総合型の入試情報と対策を学年部で共有し、生徒の特徴を活かす進路指導をした。</p> <p>日常の学習と生活指導では日々粘り強く声掛けを続けた。学校行事では生徒の自主性を促し、主体的に取り組むように配慮しながら進めた。</p> | 4 | 4.0 | <p>大学入試では、例年に比べ一般入試で合格できる生徒が増やすことができた。総合型入試では、新学習指導要領の影響で求められる内容が変わってきたことやコロナによる出欠席に対する意識低下で推薦入試に影響が出たため、今後は入学時から指導に繋げていく。</p> | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4.1 |
| | | | 平均 | 3.8 | | | | | | | | | 4.1 |

学校関係者評価委員のコメント

○図書館の閉館時間がもう少し遅くまでならないでしょうか。本を読んだり自習したりしたいのですが、中々厳しいようです。

○北中生のプレゼンスキルは素晴らしいと思います。先生方の御指導の賜物だと感謝しております。

○科学部の研究内容、研究実績はもっとアピールできるのではないのでしょうか。素人目に見ても、凄いな！面白いな！と思える研究ばかりです。

○校長先生をはじめ、担任の先生、教科担当の先生が生徒一人ひとりに対して熱心に向き合って御指導くださる姿に、保護者としては有難く大変感謝致しております。